注目のAIソリューション（第4回）

賢くなった文字認識「AI OCR」で働き方が変わる

2020.02.12

NTT西日本は、2019年12月にAI OCRサービスの「おまかせAI OCR」の提供を開始した。AI OCRとは、人工知能（AI）の高度な画像認識性能を生かして、文字認識精度を高めた光学的文字認識（OCR）機能のこと。OCRがこれまで苦手にしてきた手書き文字も含めて、高い精度で文字認識が可能になり、急速に注目を集める。

おまかせAI OCRは、日本の代表的なAI OCRサービスとして、AI insideが開発・提供する「DX Suite」をベースにして生まれた。DX Suiteは、事前に多くの文字データを学習した認識エンジン。高精度の文字認識が可能で、多くの利用実績を持つ。このDX Suiteの機能を活用して、NTT西日本が働き方改革の課題解決ツールの1つとして提供する。

なぜ、AI OCRが働き方改革の課題解決につながるのか。OCRは、紙の書類の文字を読み取り、デジタルのデータに変換する。各種申込書に代表される紙の書類を使った業務は、多くの企業や団体で簡単にはなくせない。紙の書類は、パソコンを使ってExcelの表にまとめたり、業務システムに入力したりする。この書類の入力業務、結構な手間となる。OCRの精度が高まれば、人がやらなくてもよい範囲がどんどん広がり効率化する。

NTT西日本が手軽に導入できる低料金のソリューションを提供

AI OCRを使うと、手書き書類のデータ化が容易になるとしても、「AIを活用したソリューションでは、我々のような会社が導入できるコスト感ではないだろう」という懸念も湧く。実際、AI OCRのソリューションは、月額10万円を超えるコスト感で提供されるものが多い。単純な文字入力作業のために人員を雇う人件費を考えれば、決してコストパフォーマンスが悪いわけではないものの、もう少し低コストで利用できないか、というニーズもあるだろう。

おまかせAI OCRは高精度な読み取りで定評があるDX Suiteを、月額3.3万円（税込み）という料金で利用できるようにした。低コストで提供できるのは、基本機能として月額料金で利用できる読み取り枠数を制限しているからだ。書類の中で「住所」「氏名」「企業名」など読み取る枠は、月間の合計で6000カ所までだ。中小企業向けに、高度なサービスを小分けにしてくれたイメージだ。

簡単設定で手軽に利用できるクラウドサービス… 続きを読む